

これがオススメ! 読み聞かせ本

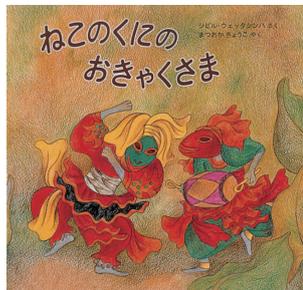
全学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

表紙は沖繩のエイサーを思わせるものです。タイコとバチで繰り広げられる歌や踊りは、見る人踊る人を元気にしてくれる力があります。この絵本も、歌や踊りのもつ力が鍵となる物語です。

この絵本はスリランカで生まれました。ほとんどの子どもたちは国の名前すら知りませんが、さし絵の色使いや登場人物（猫）の表情などに引き込まれたようです。世界中の踊りや音楽が一瞬にして目の当たりにできる現在だからこそ、この純粹さが子どもたちを魅了するのでしょう。

猫の国に歌と踊りをもち込み、働くことしか知らなかった人たちの生活に楽しみを与えてくれたのは誰か？ お面の下の素顔が明らかになるこの場面では、6年生はニヤツと笑い、2



ねこのくにの おぎゃくさま

シビル・ウェッタシンハ／作
松岡享子／訳
(福音館書店)

年生は真剣な眼差し！ どの学年にもおすすめの本です。

私の勤める東京・江戸川区は「読書科」を作り、今年は年間30時間ほどを、読書や読み聞かせなどに当てるようになりました。各学校の応援団（学校をサポートする地域の集まり）の中には「読書ボランティア」の保護者の方も参加しています。担任以外のいろいろな人の目と感性で選ばれ、繰り広げられる物語の数々は子どもたちの心を虜にしてくれます。

一冊一冊の本が一人ひとりの心の中でどう熟成されていくのかは、長い時間を待たなければなりません。色使い、表情、友情、芸術、日々の生活など様々な事を幸せな気分ですら私たちの心に残してくれたこの本も、子どもの心にとのような形で残っていくのか楽しみです。